

# 若手農業者を核とした持続的農業の確立

## ～ 秋まき小麦収量と経営能力の向上に向けた取り組み ～

十勝農業改良普及センター本所 地域第一係

### 1 活動対象及び概要

- ・対象地域 帯広市戸蔦地域14戸
- ・畑作専業 14戸
- ・耕地面積 826ha(畑作728ha、薬用作物49ha、野菜類23ha、緑肥・休閒26ha)

気象データ(2016～2020年平均値)

	積算気温 (°C)	降水量 (mm)	日射量 (MJ/m <sup>2</sup> )
対象地域	2,890	710	2,024
市中央部	2,956	717	2,516

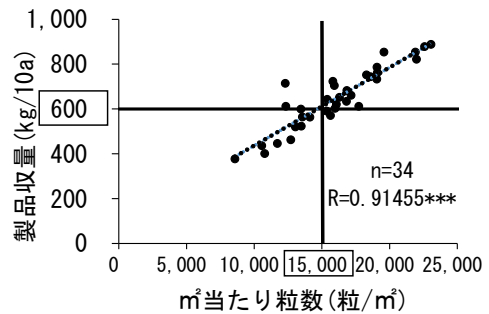
※帯広市気象観測システムより

★積算気温：低い

★日射量：少ない

### 2 背景・ねらい

- ・畑作物のうち約4割が秋まき小麦
- ・帯広市中央部よりも不利な条件  
→栽培技術の改善が必要
- ・製品収量600kg/10a以上確保するには、m<sup>2</sup>当たり粒数は15,000粒以上必要  
→追肥技術改善で収量、品質向上
- ・20～30代の後継者がいる経営体は6割  
→後継者の経営管理技術の習得が必要  
→経営シミュレーションに基づく経営計画の作成を支援



秋まき小麦の製品収量とm<sup>2</sup>当たり粒数の関係(R3～5)

### 3 活動の経過

#### (1) 秋まき小麦の追肥量改善

過去3年間のデータから  
地域に適した施肥量を把握

生育期節	窒素追肥量 (kg/10a)
起生期	4～7
幼形期	2～8
止葉期	2～5
追肥の総窒素量	上限15kg/10a



<冬期研修会>  
時間をかけ丁寧な  
改善提案を実施



<生育期間中>  
生育調査結果を基  
にタイムリーな施  
肥提案を実施

#### (2) 若手農業者の経営能力向上

- ア 品目別の生産費を分析
- イ 仲間同士で比較したデータを提供  
→改善項目とその方法を検討



生産費の聞き取り

## 4 活動の成果

### (1) 秋まき小麦の追肥量改善

農業者	起生期追肥		幼形期追肥		止葉期追肥		総合評価		粒数(粒/m <sup>2</sup> )		製品収量(kg/10a)	
	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R6	R5対比	R6	R5対比
A	×	×	○	○	×	×	×	×	15,039	82%	654	95%
B	○	○	×	○	○	○	×	○	17,617	94%	552	88%
C	○	○	○	○	×	○	×	○	17,948	132%	582	98%
D	×	○	○	○	○	○	×	○	11,836	62%	570	79%
E	○	×	○	×	○	×	○	×	6,072	109%	324	73%
F	○	○	○	○	○	○	○	○	9,765	62%	—	—
JA平均											648	92%

**6戸中4戸が提案  
通り施肥改善!!**



2名の農業者で  
目標粒数を確保!

製品収量600kg/10aに届かな  
なかったが、減収程度がJA平均並  
~やや小さくなった!!

2名の農業者は目標  
収量を確保できず...

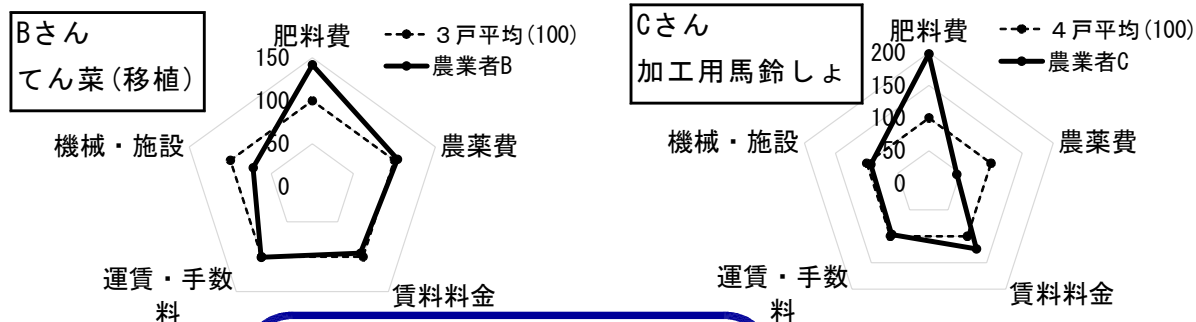
製品収量600kg/10aに届かず、  
減収程度がJA平均よりも大  
きくなった...

施肥以外の減収要因  
(病気)が大きかった!!

### (2) 若手農業者の経営能力向上

2戸の農業者で、生産費削減のための経営計画が作成できた!!

#### ●生産費分析結果



周りの仲間より「肥料費」が高い!!

JAの理解も  
得られた

考察

気象やほ場条件が似ている仲間  
同士で比較できたことがポイント!!  
 <農業者の声>  
 「周りの仲間と品目別の生産費を比  
較することで改善項目が見えた」

●生産費削減のための経営計画  
→「減肥で肥料費削減」

## 5 今後の対応

- (1) 地域独自の追肥マニュアルを作成、活用し、技術の定着を図る。
- (2) 作成した経営計画に基づき、生産費削減の実践を支援する。